

月歩

学歩

千葉明德短期大学保育創造学科

2016. FEB. Vol.8

“月日を歩き、学んで歩く” 明徳の「今」

子どもと
造形表現
を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」



新たな扉を前に

特集Ⅰ

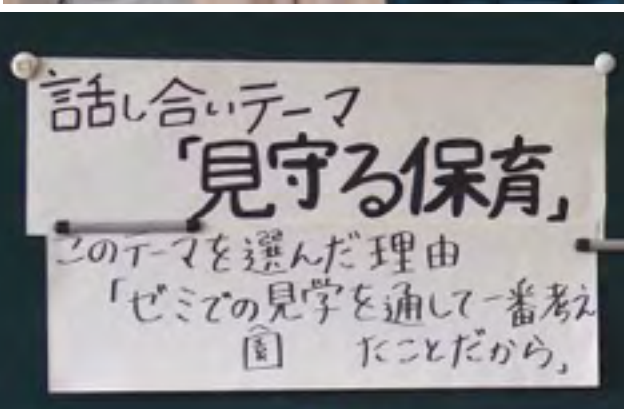
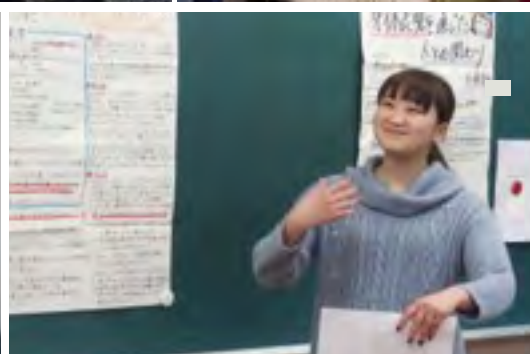
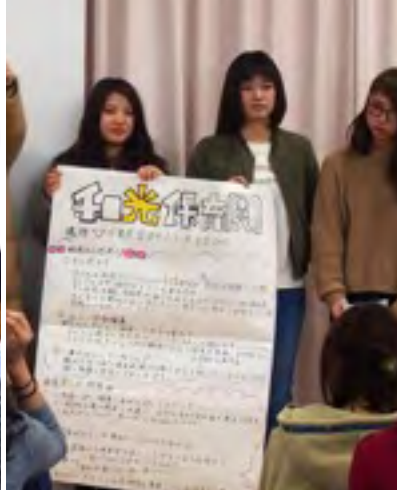
社会を学び、社会に出る (P.4-9)

- ・「現代社会論」の取り組み
- ・「現代社会論」総論 模擬選挙
- ・卒業の向こう側

特集Ⅱ

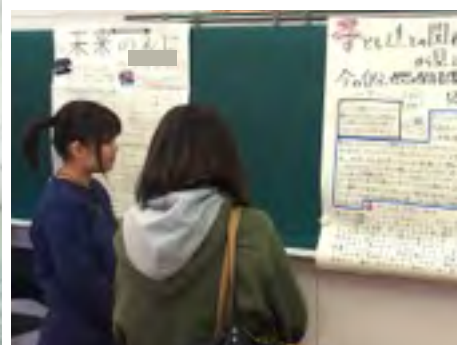
学びの成果発表会 (P.10-13)

- ・1年生 保育実習中! (P.14)
- ・教員からのおすすめ (P.15)
- ・「月歩学歩学生委員」ページ (P.16-17)
- ・hot news! (P.18-19)



新たな扉

あと1ヶ月で、2年生は社会人に、1年生は2年それぞれの扉を開く鍵が、この月歩学歩にありますよ





☆ゼミの目的

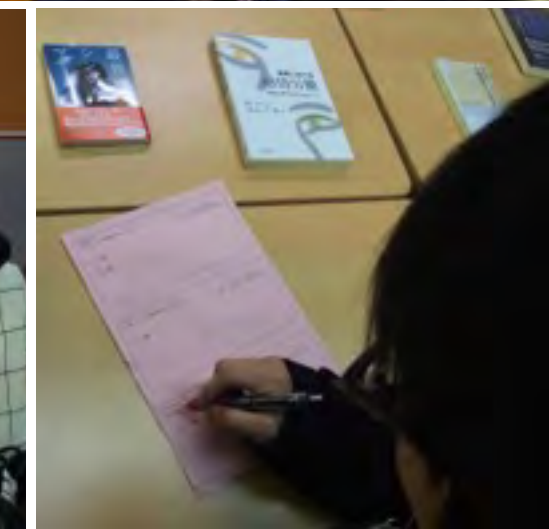
- 保育参加(フィールドワーク)
すべての保育園・ひかりの子学園バザール、クリスマス会、お正月会、お盆会、お花見保育園ハグ
- 32,000字のレポート 2月9日提出
- 誰かがやらなければいけないのなら、私がやるという人になる



★ゼミのテーマ
保育者とは社会の中でどのように生きる大人なのかを考える

を前に

生に、とそれぞれの新しい扉を前にしています。
うに。そんな願いを込めた月歩学歩第8号です。





特集 I

社会を学び、社会に出る

「現代社会論」の取り組み

明石 現

「現代社会論」は、2年生の卒業必修科目として、今年度は様々な専門分野の非常勤の先生方6名と専任教員3名、計9コースで行われました。この科目では、保育の専門的な学びから少し距離を置き、社会の様々な環境で暮らしている人々の文化、芸術、福祉を通して自分たちの暮らしを見つめ直し、「社会の中で自分はどこに軸足を置くのか」ということを問いかけます。各コースが行うフィールドワークでは、学生の皆さんが初めて行く場所で、普段出会うことのできない方々と交流する貴重な体験を通して、今後の自分の生き方を問い直すきっかけになることも、少なからずあったことと思います。

【今年度の各論】

担当教員	各論テーマ
金子 重紀	現代社会の中の犯罪 -同じ社会に生きる者として
山野 良一	日本の不平等を考える -無縁社会・ホームレス・子どもの貧困
明石 現	芸術を教育・福祉へ
植野 一芳	現代社会と都市
小木曾 宏	子ども家庭福祉
加藤 次郎	消費生活と手仕事
よしなか あつし	サウンドスケープ：音との対話 自分との対話
渡辺 泰子	現代社会と関係する方法
木村 尚志	地域社会と文学

これから「現代社会」に出て行く皆さんに向け、2年生の卒業必修科目である授業「現代社会論」を特集しました。また、福祉の道を長年歩み続けている加藤先生から、社会に出る2年生へのメッセージをいただきました。

広い視野を持つ、とはよく言われることですが、当たり前のように大変難しいことです。現代社会論では例年通り、各論・全9コースの共通の到達目標として「現代社会における自分の立ち位置を探求・確認し、自分なりに表現できる」を設定し、現代社会を構成する様々な要素を各コースの切り口で捉え、中間報告会や総論において要素間（各論）の相互関連性を考えることも視野に入れました。各論で扱っているテーマがそれぞれ無関係に存在しているのではなく、現代社会の中で複雑に絡み合っていることを念頭に、報告や討論を通じて他者に自分の考えを伝え、様々な視点を共有する場が総論ということになります。また、今年度は新たな取り組みとして、学内廊下に現代社会論専用のホワイトボードを設置し、各論毎に現在、行っている活動報告を貼り出し、2年生には情報共有を、1年生には授業の取り組みを知ってもらい、次年度のコース選択の参考にもなるようにしました。



学生の皆さんが、それぞれの学びを糸口に現代社会を俯瞰するには、今後の社会生活の中で他者と擦れ合い、そして自問自答を繰り返しながら考えるという、長い時間が必要です。総論ご担当の植野先生が仰るように、現代社会論の授業がいつの日か“ジャブ”のように効いてくることを願い、各論と総論の相互作用により、私たちを取り巻く社会の広さ、深さを実感できるような授業の仕組み作りが、今後も必要不可欠であると考えています。

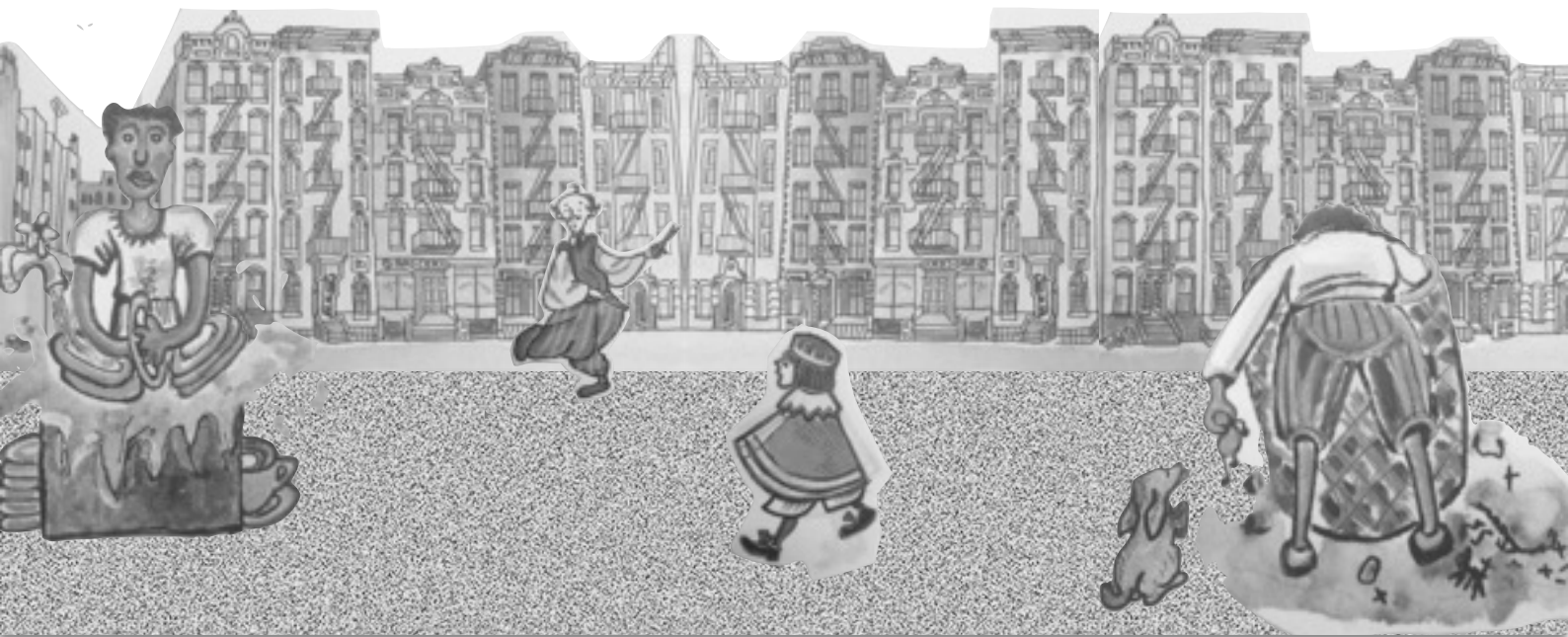


「現代社会論」 総論 模擬選挙

金子 重紀

平成27年度「現代社会論」の後期総論において、模擬選挙を行いました。これは、「現代社会論」初めての企画です。選挙資格が18歳に引き下げられたことを契機に、選挙を体験してみようということが企画の始まりでした。その上で、「現代社会論」を1年間学んできて、それぞれのコースでの学びから、現在、日本で問題となっているテーマについて考えてみるのがねらいです。現2年生は、1年時の授業「日本国憲法」の中で、集団的自衛権は是か非かとの討論を行っており、その延長のイメージで、模擬選挙を行うことは可能と考えたのです。後期から何人かの学生に声をかけ、このような企画をしているがどうかと話してみると、やってみたいとの反応が多くありました。

当初の企画としては、①原発問題、②沖縄米軍基地移設問題、③難民問題、④税金問題の4つのテーマの中から2つのテーマに絞り、それぞれ賛成・反対の立場で立候補してもらい（したがって、4名の立候補者を立てる）、投票を行うということを考えていました。ところが、ある学生から、自分は現代社会論のコースの中で考えたこと（沖縄米軍基地移設問題）を言いたいから立候補したいとの意思表示があり、技術論的に走っていたことを反省しました。結果として、4つのテーマのすべてでも良い、1つでも良い、自分の主張を持った立候補者を募ることにしました。



12月に入り、立候補者を募集し、1月12日を締め切りとしました。以下、総論の日程に合わせ、1月13日午前：演説・公開討論会、1月20日午前：直前アピール・投票、1月27日午前：当選者発表 としました。

ちなみに、投票箱・投票用紙記入台は、千葉市中央区選挙管理委員会から実物を借りてきました。また、選挙事務は、金子コースの学生が行いました。

立候補者は（立候補順に）小木曾一公君、及川駿君、吉野聖華さんの3名で、吉野聖華さんが当選しました。おめでとうございます。吉野さんは、民主主義とは何かという根本的な問題を提起されていました。そのことが得票を伸ばしたのではないかと個人的には考えています。

投票後のアンケートによると、「実際の選挙に行くか」という問いに対して、①必ず行く（21%）、②たぶん行く（49%）、③分からない（25%）、④たぶん行かない（5%）、⑤絶対に行かない（0%）との結果になりました。①と②を合わせると、投票率が70%になります。若い層の投票率としては画期的な数字になります。

今回の取り組みは、準備不足であったことは否めないと思います。しかし、模擬選挙を行った意味は十分にあったのではないかと考えます。今年度の反省を踏まえ、次年度以降も行ってみたいと考えています。

卒業の向こ

2年生のみなさん、卒業おめでとうございます。いよいよ社会人の仲間入りですね。

期待と同時に、不安も大きいことと思います。卒業後の向こう側が見えないことが不安の原因ではないでしょうか。

卒業されたおひとりから、先日メールが入りました。『あす、時間、とれますか？』差し迫った様子がかがえたので、すぐに『あなたのご都合に合わせます』と返信しました。

翌日の午後、短大にお出になりました。人に聞かれたくないので『保健室』をお借りしました。坐るとすぐに右腕をまくりあげ「やっちゃいました。どうしようもなく自傷しちゃいました」と、痛々しい傷の痕を見せてくれました。働き始めた職場の人間関係に悩み苦しんでいるのだそうです。夜、自分がその職員を激しく殴りかかる夢を見て、自分がびっくりしたそうです。利用者さんを送迎の途中、嘔吐を催しコンビニのトイレに駆け込んだこともあったとのこと。そんな苦しい胸の内を吐き出してくれました。

「きょうは無理をいって、休みました。でも、あした、出勤できるかわかりません」――午後1時すぎから始めた面談が、ふと見上げると4時を過ぎていました。そこで、ぼくの方から、すこしお話しさせていただきました。

う 側

加藤 次郎

「短大を卒業して1年目のあなたは、4年制大学で言えば3年生。1年後に卒業。とすれば、あなたは今、社会人研修（インターン）をしていると思ったらいかがでしょう。この2年間を職業訓練期間とみなして社会人になるための人間関係のトレーニング中。残りの1年で、本当に自分がやりたいこと、働きがいのある場所を探したらいかがでしょう。」「そうか、私は、社会人勉強の途中だと思えばいいのか、お給料をもらいながら勉強していると思えばいいんだ。あと1年間、いろんなことを勉強して、本当にやりたい職場を見つければいいんだ。“希望の光”が見えてきました。」ご本人の口から“希望の光”という言葉が出てきました。このあと表情がやわらぎ、来年からは、あんなことをしたい、こんな仕事をしたいと、楽しそうに夢を語ってくれました。午後5時近く、また来ます、と手をあげて、明るい笑顔で、お帰りになりました。

私たち教員は、成人式を済ませたみなさんを「立派な社会人になってください」と送り出しています。でも突然、急に社会人になれるものではありません。それまでの時間を「青年期のモラトリアム（執行猶予）」といいます。社会人になるまでには、それなりの経過期間が必要だという考え方です。

ぼくは、大学を中退して途方に暮れたとき、自分の生き方を「30歳までに何とか見つけよう」と「30歳成人説」を友人に主張していました。思いがけず25歳で福祉という名の人生最高の宝物と出会うことができました。いま振り返って、じっくり修行時代（モラトリアム）を生きることができた自分を、とてもよかったと思えています。

「卒業」という言葉の語感が、いかにも退路を断たれた印象を感じますが、行きつ戻りつでいいじゃないか。一生懸命がんばったけど、それでもだめだったら、いつでも戻っておいで。先輩のように。もう一度、やり直せるのが、この短大ですから。

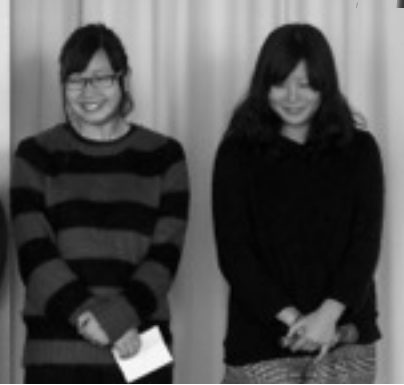


2015年度の学びの成果発表会は、2月12日（金）に、短大にて行われ、無事、終了しました。2年生が「保育方法演習」という科目（通称・ゼミ）で1年間、少人数で取り組んできた内容・学んできたことを、全学生の前で、ゼミ単位で発表をするパートと、各ゼミがそれぞれの教室を使い、ゼミごとに発表内容（形式）も決めて発表を行うパートと、2部構成で行われました。

毎年、前年度の反省を活かし、教員側で発表会の枠は提示しますが、発表の中身は2年生が作り上げ、この時期に行われています。今年は、①10分間の全体発表で、1年間ゼミで取り組んできたことを発表すること。②1時間、各ゼミ / 個別の取り組みなどを、ゼミごとに工夫して発表を行うこと。以上2点が、教員側で決めた枠でした。

例年、この時期に発表会を行っているので、2年生にとっては、1年間の授業を終え、総まとめとして振り返り、自分たちの学びを整理し、発表をしています。一方で、1年生にとっては、保育実習の前半と後半の合間の時期に当たるため、例年、これは1年生にとっても出席しなければならない行事なのかと質問を受けます。今年度は初めて、1年生には授業の出席の扱いとする旨を伝え、出席を促すことで参加率の問題は解消されましたが、ずっとこの行事を担当してきた私にとっては、他の方法はなかったのか、心残りとなりました。

今回の特集2つ目は、卒業前の集大成と言える「学びの成果発表会」です。2年生の皆さんは、これまでの成果を実感し、達成感を味わえたでしょうか。集大成ではありますが、この発表が終わりではありません。卒業しても、学びの道は続いていきます。そして1年生の皆さんは、来年度の自分の歩みをイメージできたでしょうか。この発表会を長年担当してきた金先生からの報告です。



みなさんに、当日、前半の全体発表が終わった時点で伝えたことがありましたね。覚えていますか。2年生の発表する側には、聞く側の事を考えながら発表をしてほしい、後半発表するゼミの学生には、短時間で申し訳ないけど、午後の発表までに、どのような発表にするのか、工夫をしながら微調整してほしい、と伝えました。そして、1・2年生の聞く側には、聞き手としてのマナーを意識してほしい、興味がない内容でもとにかくきちんと聞いてほしい、という意味ではなく、たとえ自分にとって興味を持ってない内容であっても、一生懸命発表している人がいること、興味を持って聞いている人がいるかもしれないことをきちんと考えてほしい、と伝えました。実は、前半、どのタイミングでこのことを皆さんに伝えるべきか、ずっと考えながら進行を担当していました。以下の事を考えながら...

今年度の2年生は、残念ながら、1年生の時の「学びの成果発表会」の出席率が、過去最低の代でした。したがって、聞く側を全員が経験したわけではなく、そのため、受け身である1年生の立場を考えながら発表の準備を進めることは難しかったのではないかとぼんやり考えていたのです。



数年前の代の話を少しさせてください。当時、私のゼミには、高3の時も「学びの成果発表会」を見に来ていた学生が2人いました。そして、ほとんどの人が1年生の時、「学びの成果発表会」に参加していたため、いよいよ自分たちが発表する立場になったとき、「去年、聞いてつまんなかったよね、よくわかんなかったよね」という感想から出発し、「ジコマンの発表になっちゃいけないよね!」「実習の合間に参加している1年生にも興味を持ってもらえる発表にしたいね!」と学生たちの方から声が上がりました。そして、発表会に向けて、ゼミでの話し合いの雰囲気伝えるため、寸劇仕立てで、聴覚的にも、視覚的にもわかりやすいような発表になるよう工夫をしながら作り上げていきました。

今年の発表会を見ていて、強く思った事。学校行事は、何年続いているか、という年数が大事なのではなく、どのようなことが下の代に受け継がれていっているのかが大事であると、改めて考えさせられました。2010年度から始まった、この「学びの成果発表会」は、今回が6回目でした。そして、来年度も行われることは決定しています。今の1年生が来年の2月、発表する側になったとき、今年の2月12日の発表会をどのように思い出し、振り返り、どのような姿勢で作り上げていくのか、期待したいと思います。

2年生の皆さん、自分たち“の”、「学びの成果発表会」はいかがでしたか？ もう一度、発表会をするならば、どこを修正（さらに工夫）したいと思いますか。

改めて、当日に向けての準備、当日の発表、お疲れ様でした。

1年生の皆さん、来年、自分たち“が”、「学びの成果発表会」で発表する側になったとき、どんな発表会にしたいですか？ 今年、貴方たちが感じたことを、来年、活かして教えてください。



【2015年度「保育方法演習」一覧】

担当教員	テーマ
明石 現	子どもと芸術
石井 章仁	子育て子育て支援 ～地域・保護者・子ども・学生それぞれの“育ちあい”を考える～
伊藤 恵里子	保育者とは社会の中でどのように生きる大人なのかを考える
片川 智子	共に生活する場としての保育を考える
金 瑛珠	“子ども理解”と“援助”について考える
小久保 圭一郎	保育実践論
柴田 大輔	他人を識り、自身を識る
田中 葵	保育における身体表現活動の探求
深谷 ベルタ	言葉から保育にアプローチする
山野 良一	保育を社会的養護の現場から考える
由田 新	あそびに対する保育者のかかわりについて考える

この発表会は、1・2年生全員が集う年に一度の会です。

今年は、全体発表もゼミ別発表も、映像あり、語りあり、パフォーマンスあり、ポスターあり、と各ゼミの特徴が表れていた発表でしたわ。2年間、着実に、丁寧に、真面目に歩んできたことが伝わる発表がいくつかありました。しっかり取り組んできたことには、誇りと自信が持てたのではないのでしょうか。ここで学んできたこと、発表したことが、今後に生きてますように！

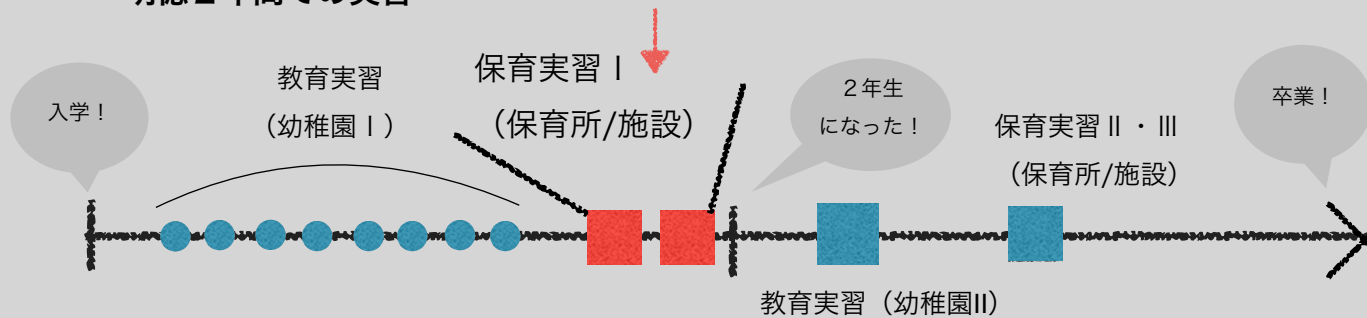




1年生!

保育実習中!

…… 明德2年間での実習 ……



1年生は、保育所と施設で2週間ずつ実習する「保育実習Ⅰ」真っ最中です。前半が保育所だった人は施設で、施設だった人は保育所で実習です。前半の実習後2月9日に行われた実習事後指導では、それぞれの実習での体験を語り合いました。実習では、それぞれ、感じたこと、気付いたこと、考えたことがあると思います。次の実習事後指導で語られる皆さん一人ひとりの物語を楽しみにしています。

PROFILE



教員名

こくぼ けいいちろう
小久保 圭一郎

担当科目

保育内容演習、保育方法演習他

メッセージ

私の専門は保育史です(たぶん)。ある人物や物事の転換期はいつのことか?そしてそれは世界にとって、自分にとってどんな意味を持つのか?それを探求するのが歴史研究の面白さです。歴史の勉強は暗記だけじゃないですよ。そんなことを紹介したくて、今回のコラムを書きました(したがって分析には私見がかなり入っています)。

注1) 正確には「スケバン刑事II少女鉄仮面伝説」。2代目スケバン刑事である。ちなみに初代は斉藤由貴、3代目は浅香唯である。

注2) これはすべて「スケバン刑事」の主題歌(劇場版含む)としてリリースされた。そうではない先行シングルには「恥ずかしすぎた」(デビュー曲)、「接近(アプローチ)」(5枚目シングル)がある。

注3) 3rdアルバム「BLOOM」6曲目に収録。

注4) 今でいう「たかみな」「こじはる」「まゆゆ」「ゆきりん」みたいなものです。

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ!」を紹介していきます。

第6回目は、小久保先生から皆さんへのおすすめです。

南野陽子7枚目シングル

「話しかけたかった」(CBSソニー)



それまで南野陽子といえば「スケバン刑事」^{注1)}のイメージが強く、シングル「さよならのめまい」「悲しみモニュメント」「風のマドリガル」「楽園のDoor」^{注2)}などは、そのイメージを色濃く反映したもので、アップテンポながらもどこか悲壮感漂うマイナー調の曲であった。6枚目「楽園のDoor」の次のシングル曲についても、当初は「花束を壊して」

^{注3)}というこれまでのイメージを踏襲したマイナー調の曲が候補に挙がっていたらしい。しかし実際にシングルとなったのは、打って変わってミディアムテンポで明るくかわいらしい曲であった。

それが「話しかけたかった」である。

当時私は南野陽子が好きであったが、それまでのシングル曲に対しては「南野陽子の良さが出ていない」という不満も抱いていた。そのためラジオでこの「話しかけたかった」を初めて聴いた時「なんていい曲なんだ!南野陽子のイメージにぴったりだ!」と興奮したことを覚えている。その一方、この「話しかけたかった」では、南野陽子の別の一面が際立つようになる。

それは歌い方(テレビ出演時)だ。「風が♪踊る♪五月のまーちーで♪輝いてーる彼を♪みーかけたーわ♪」という彼女独特の、鼻にかかったような声で張り切って歌うスタイルが、この曲で際立ってきたのだ。そこには私の好きだった「清楚でかわいらしい」南野陽子のイメージはなかった。「話しかけたかった」以降、南野陽子はトップアイドルとして君臨してゆく。それと共に彼女の愛称「NANNO(ナンノ)」も^{注4)}、急速に世間に広まってゆく。いわばこの「話しかけたかった」は、南野陽子からトップアイドル「NANNO」への転換期にあたる曲だったということである。一方、自分を振り返ってみると、8枚目シングル「パンドラの恋人」以降は惰性で南野陽子の曲を追い続けていたような気がするのだ。

そう。「話しかけたかった」は、私の好きな南野陽子のイメージにふさわしい、最初で最後の曲だったのである。この時が私の「南野陽子好き」の頂点だったのである。

月歩学歩



さあ、実習の始まりだ！

今号では、保育実習 (前半・後半)

前半

目覚まし時計
セットしたかな？

朝ごはん
1日はここから

通勤



去年の夏の保育ボラン
ティアを思い出して！

メモを取るって
難しいね

何を質問しよう？

気になることを
質問してみよう

～反省会～
今日はどうでした？

実習録が
書けない…

睡眠不足



折り返し地点

休

ご飯を食べて 
たくさん寝て 
実習録を仕上げて！ 

印象に残っていることは
何ですか？

授業で聞いたことだ！

否定的な言葉は使わないでね

こどもから嫌いと言われた。お互いに傷ついた。自分の気持ちを素直に伝えると抱きつかれた。こどもからは言葉は出ない。でも気持ちはある。次の日、「先生、ごめんね」。こどもはすぐ考えている。私とこどもの関係で私にできることをした。

おつかれさま！
学校に帰ろう！

学生委員ページ

の様子をお伝えします♪

こどもの成長
にびっくり!



オムツを
自分で交換!

言葉を話せる
ようになった!

たくさん歩ける
ようになった!

主張がすごく
強い!

マスクをつけて
手洗い・うがいの徹底!

こどもたちは
大丈夫かな?

風邪が
流行ってる

自分の意見を
言う大切な時期


節分
鬼 鬼 鬼

こどもにとって何の
意味があるのかな

何もしないところも
あるんだね

今日のねらいは
何ですか?

利用者と見た夕日は綺麗だったなあ
でも言葉では表現できない...

予想外の行動
ハートの折り紙が
飛行機に  楽しい!

ねらいを立てる
タイミング...

後半
どんな実習になるのかな?

楽しみ?
不安?

?



! hot news !

new movements of this month in meitoku
! 今月の明德速報!

予告：研修生発表会

明德では、卒業した後も学びを深めたいという方を対象として、1年間保育現場で働きながら、スクーリングや個別指導を受ける研修生制度を設けています。今年度は、6名の研修生が1年間、研修を行ってきました。そんな研修生が、研修園の先生方・短大の教員に対してこの1年間で何を学んできたのかを3月に発表します。

《研修生名・研修園名》

井上 和幸・明德土気保育園

鈴木 利美・明和輝保育園

大槻 洋平・明德やちまたこども園

森 麻世・あさひ保育園

神崎 大匡・富貴島幼稚園

森 誉太・千葉明德短期大学附属幼稚園

- ※ 研修生制度に関心のある方は、下記「こども臨床研究所」までご連絡ください。
なお、発表会は関係者のみで実施し、次号でその様子をお伝えする予定です。

TEL

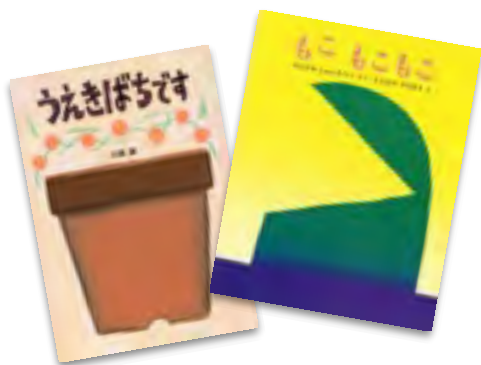
043-263-9111

MAIL

korinken@chibameitoku.ac.jp



職業理解に向けて



👉 ぜひ、読んでみて!

先日、県内のとある高校にガイダンスでお邪魔してきました。ガイダンスでは、保育に関心のある1年生に対して、保育という職業を理解してもらおうと、絵本を読んだり（高校生にも読んでもらいました）、仕事のやりがいや免許・資格取得の方法などをお話してきました。既に保育者になることを決めている高校生もいれば、これから進路を決めていく高校生もいました。今回の話が、自分の納得の行く進路決定をする際の参考になれば何よりです!

私としては、一人でも多くの高校生が本学に入学してくれると嬉しいです♪ (鶴田)

♪ Home Coming Day for 44回生 ♪



2月20日（土）、昨年度卒業した44回生を招くHome Coming Dayを開きました！

44名もの卒業生がいらっしゃいました（過去最多です）。全員とはお話できませんでしたが、一人ひとりの顔を見ると、それぞれの学生時代の記憶がよみがえり、1年で皆大人の顔つきになっていることに驚きと感動がありました。卒業してもこのように会えることは、教員としてとても嬉しいことです。そして同じ社会人として話を聞けることは、刺激にもなりました。働き始めて見たことが、それぞれあると思います。楽しいことばかりではないでしょう。でも、こうやって、共に学んだ仲間や教員と語り合うことが、明日への活力になったなら嬉しいです。卒業生の皆さんは、人のことを大切にせる職業についていますが、自分のことも大切にしてほしいと願っています。

2年生の皆さん！ 卒業後にはこのような会がありますから、ぜひいらしてくださいね！



MEITOKU SNAP



3月15日、現2年生の45回生が、2年間の学びを経て卒業します。明徳の卒業式では、多くの大学とは違い、代表者ではなく、学生一人ひとりに卒業証書を渡します。少し時間はかかりますが、一人ひとりに壇上で卒業証書を渡すということを大切にしています。

明徳の3月

1日(火)

▶ 科目等履修生相談会

2日(水)～4日(金)

▶ 保育実習 | 事後指導

5日(土)

▶ 一般入試+公開授業

8日(月)+18日(金)

▶ 研修生スクーリング

11日(金)

▶ 入試面談

15日(火)

▶ 第45回卒業式・卒業パーティー

27日(日)

▶ オープンキャンパス

28日(月)～31日(木)

▶ 保育体験DAY (高校生対象)

31日(木)

▶ 新2年生 オリエンテーション



編集後記

1年生の保育実習は、1月下旬から始まりようやく終わろうとしています(まだ続いている皆さん、体調に気をつけてあともう少し頑張ってください)。2年生はというと、早いもので、もう卒業です。短大の2年間は「あっ!」という間です。1年生は進級して2年生に、2年生は卒業して社会人になります。一人ひとりが自分の意志で新たな道を歩まれることを切に願っています。

さて月歩学歩では、毎号、明徳の「今」を伝えています。今年度から月歩学歩の編集に学生委員にも加わってもらいましたが、これまでは編集委員の力不足もあり、学生委員の力が発揮される箇所は「月歩学歩学生委員ページ」に限定されていました。遅くなりましたが、今年度の最終号となる次号では、明徳の「今」を学生視点からも伝えるために、取材・執筆・編集・発行と全行程を学生委員と行う予定です。新たな取り組みへの挑戦に今からワクワクしています。(鶴田)

★INFORMATION★

明徳HPの「めいたんブログ」でも、明徳の「今」を日々発信しています。ぜひご覧ください。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明徳短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

鶴田 真二



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せください。